



奄美大島から得られた奄美群島初記録のイッテンサクラダイ

橋本慎太郎¹・前川隆則²・本村浩之³

Author & Article Info

¹ 鹿児島大学水産学部 (鹿児島市)

k1028515@kadai.jp

² 株式会社前川水産 (奄美市)

³ 鹿児島大学総合研究博物館 (鹿児島市)

motomura@kaum.kagoshima-u.ac.jp (corresponding author)

Received 02 October 2021

Revised 05 October 2021

Accepted 06 October 2021

Published 06 October 2021

DOI 10.34583/ichthy.13.0_9

Shintaro Hashimoto, Takanori Maekawa and Hiroyuki Motomura. 2021. First records of *Odontanthias unimaculatus* (Serranidae) from the Amami Islands, southern Japan. *Ichthy, Natural History of Fishes of Japan*, 13: 9–12.

Abstract

Three specimens (117.6–127.0 mm standard length) of a western Pacific species *Odontanthias unimaculatus* (Tanaka, 1917) (Serranidae) were collected from Amami-oshima island, Amami Islands (middle of Ryukyu Islands), Japan. In Japanese waters, *O. unimaculatus* has previously been recorded from the Ogasawara Islands, Sagami Bay, Suruga Bay, Kumano-Nada, Wakayama Prefecture, Tosa Bay, the Osumi Islands (Kuro-shima island), the Tokara Islands (Kuchino-shima, Gaja-jima, Nakano-shima, and Taira-jima islands), and the Okinawa Trough. Thus, the present specimens described herein detail represent the first records of *O. unimaculatus* from the Amami Islands.

ハタ科イッテンサクラダイ属 *Odontanthias* Bleeker, 1873 は世界から 16 有効種が報告されており (Parenti and Randall, 2020), そのうち、日本国内からはマダラハナダイ *O. borbonius* (Valenciennes, 1828), ハタタテハナダイ *O. flagnosis* Yoshino and Araga, 1975, バラハナダイ *O. katayamai* (Randall, Maugé and Plessis, 1979), ボロサクラダイ *O. rhodopeplus* (Günther, 1872), およびイッテンサクラダイ *O. unimaculatus* (Tanaka, 1917) の 5 有効種が知られている (本村, 2020).

イッテンサクラダイは熱帯から温帯にかけての 60–250 m の岩礁域に生息し、日本から台湾、フィリピン、およびインドネシアから報告されている (Lee, 1990; Randall and Heemstra, 2006; Peristiwady, 2011; Hata, 2017; 田代ほ

か, 2018). 日本国内ではこれまで小笠原諸島, 相模湾から土佐湾, 大隅諸島, トカラ列島, および沖縄舟状海盆から記録されている (田中, 1917; 黒田, 1951; 山川, 1985; Shinohara and Matsuura, 1997; Senou et al., 2006; 瀬能, 2013; 池田・中坊, 2015; 田代ほか, 2018).

2019 年の 3 月, 8 月, および 2021 年の 7 月に奄美大島からそれぞれ 1 個体のイッテンサクラダイが採集された. 本種は南日本の広域から記録されているものの, 奄美群島における記録はこれまで知られていなかった. 奄美大島産の標本は本種の奄美群島における初めての記録となるため, ここに報告する.

材料と方法

計数・計測方法は Randall and Heemstra (2006) にしたがった. 体各部の計測はノギスを用いて 0.1 mm 単位まで行い, 計測値は体長に対する百分率で示した. 標準体長は体長または SL と表記した. 形態の観察には実体顕微鏡を用いた. 生鮮時の体色は固定前に撮影された 3 標本 (KAUM-I. 129140, 132724, 159016) のカラー写真に基づく. 標本の作製, 登録, 撮影, および固定方法は本村 (2009) に準拠した. 本報告に用いた標本は鹿児島大学総合研究博物館 (KAUM) に保管されており, 上記の生鮮時の写真は同館のデータベースに登録されている.

Odontanthias unimaculatus (Tanaka, 1917)

イッテンサクラダイ

(Fig. 1; Table 1)

標本 3 個体 (体長 117.6–127.0 mm), すべて鹿児島県奄美大島近海産: KAUM-I. 129140, 体長 127.0 mm, 2019 年 3 月 18 日, KAUM-I. 132724, 体長 119.6 mm, 2019 年 8 月 19 日, 前川隆則; KAUM-I. 159016, 体長 117.6 mm, 奄美市名瀬立神沖, 水深 60 m, 2021 年 7 月 27 日, 窪 房一.

記載 計数形質と各体部の体長に対する割合を Table 1 に示した. 体は楕円形で側扁する. 頭部背縁の輪郭は直線的で, 後頭部はゆるやかに隆起する. 吻長は眼径より短

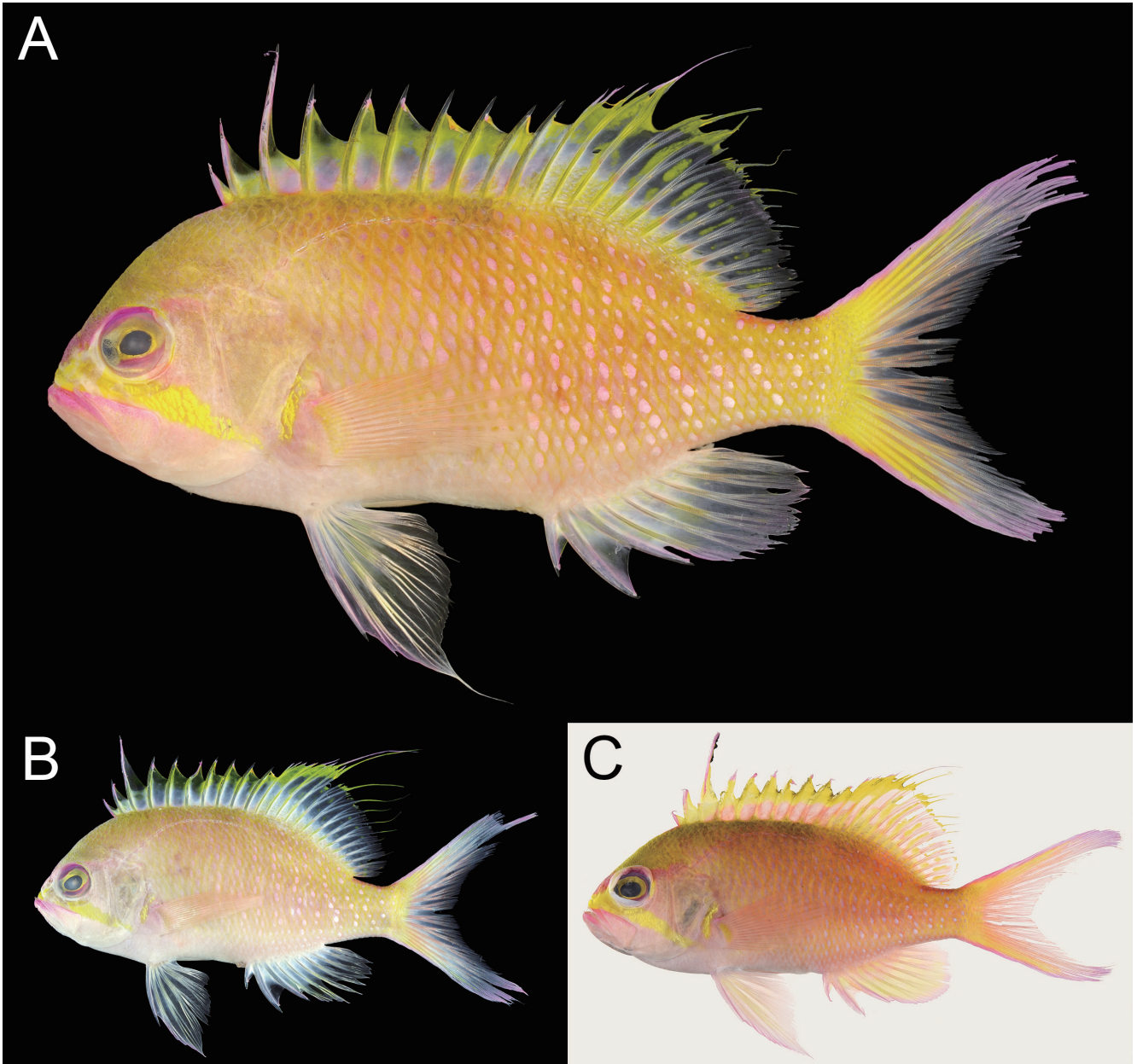


Fig. 1. Fresh specimens of *Odontanthias unimaculatus* from Amami-oshima island, Amami Islands, Japan. A: KAUM-I. 129140, 127.0 mm SL; B: KAUM-I. 132724, 119.6 mm SL; C: KAUM-I. 159016, 117.6 mm SL.

く、丸い。口裂は端位で上顎後端は眼中央直下を超える。下顎前端は上顎前端よりわずかに突出する。鼻孔は2対。前鼻孔は円形で短い皮弁をもち、吻端と眼窩前縁の中間に位置する。後鼻孔は楕円形で皮弁をもたず、眼窩前縁に隣接する。眼は正円形。舌上に絨毛状歯が密生する卵形の歯板がある。上顎歯は絨毛状で密に並ぶ。上顎前部にはわずかに後方に湾曲した犬歯状の歯があり、KAUM-I. 129140では1対、KAUM-I. 132724では左側に2本、右側に1本、KAUM-I. 159016では2対ある。その内側に後方に倒れた犬歯状の歯があり、KAUM-I. 129140では左側に1本、右側に2本、KAUM-I. 132724とKAUM-I. 159016では2対ある。鋤骨歯は絨毛状で扇形の歯帯を形成する。口蓋骨歯は絨毛状で、1対の歯帯を形成する。下顎歯は前部で絨毛状に密に並び、後部で1-2列になる。下顎前部にはわずかに後方に湾曲した犬歯状の歯があり、KAUM-I. 129140では1対、

KAUM-I. 132724では左側に2本、右側に1本、KAUM-I. 159016では左側に1本、右側に2本ある。その外側後方にはわずかに後方に倒れた犬歯状の歯があり、KAUM-I. 129140では2対、KAUM-I. 132724では1対、KAUM-I. 159016では左側に1本、右側に2本ある。上下顎歯帯の幅は、前方で広くなり、側方で狭くなる。上顎歯帯の外列歯は内側の歯よりやや大きい。下顎歯帯の外列歯は内側の歯よりやや小さい。体は眼の前下方、頭部腹面、および鰓蓋膜を除き櫛鱗に被われる。前鰓蓋骨後縁は鋸歯状で、角隅部にやや大きな1棘があり、主鰓蓋骨後縁には達しない。前鰓蓋骨下縁は疎らな鋸歯状。主鰓蓋骨上部には4本の棘をもつ (KAUM-I. 159016の右側は3棘)。鰓耙は比較的長く、密に並ぶ。側線は鰓孔上端から始まり、背鰭第7棘直下付近まで上昇する。その後、背鰭基底後端直下付近まで下降し、それ以降は体軸と平行で、尾鰭基底に達

する。側線孔は鱗の前後方向に伸び、管状となる。背鰭起部は前鰓蓋骨後縁直上付近に位置する。背鰭第3棘が最も伸長する。背鰭棘条部の鰭膜はやや深く切れ込み、後方にかけて切れ込みが浅くなる。背鰭軟条は KAUM-I. 129140 では第2–5軟条、KAUM-I. 132724 では第2–9軟条、および KAUM-I. 159016 では第2–8軟条で糸状に伸長し、背鰭最長軟条は第3軟条。臀鰭起部は背鰭第3軟条と同位 (KAUM-I. 159016 は背鰭第2軟条)。臀鰭軟条は第3軟条が最も伸長する。胸鰭基底上端は鰓蓋後縁直下よりやや前方に位置し、胸鰭後端は臀鰭起部直情に達する。腹鰭起部は背鰭第3棘直下付近に位置する。腹鰭第2軟条は糸状に伸長する。畳んだ腹鰭の後端は臀鰭起部を超える。尾鰭は深い湾入形。

色彩 生鮮時の色彩 (Fig. 1) — 体側の地色は KAUM-

I. 129140 では明るい黄みのオレンジ、KAUM-I. 132724 ではあざい赤みの黄、および KAUM-I. 159016 ではつよい赤みのオレンジであり、背縁は黄みがかかる。体側腹方は淡色。体側中央から尾柄にかけて桃色みを帯びた白色斑が散在する。尾柄上下縁は赤紫色に縁どられる (下縁は薄い)。頭の地色は淡い赤紫色で、眼上方から背縁にかけてややにぶい黄色を呈する。上顎前端から吻部、眼下、および鰓蓋後縁にかけて明るい黄色の1斜線がある。上顎前端を除く上顎前部、主上顎骨上縁、および下顎前部は赤紫色が強くなる。頭部腹面は淡色。背鰭第1棘から背鰭第3軟条にかけての縁辺は赤桃色で縁どられる (KAUM-I. 129140 では背鰭第9棘と第10棘は縁どられない)。背鰭第1棘と第2棘の鰭膜は明るい黄色を呈する。背鰭第3棘鰭膜先端は黒色。背鰭第3棘から第10棘にかけての基底は薄い赤橙色を呈

Table 1. Counts and measurements of *Odontanthias unimaculatus*.

	This study	Tashiro et al. (2018)
	Amami-oshima island <i>n</i> = 3	Osumi and Tokara islands <i>n</i> = 8
Standard length (SL: mm)	115.9–127.0	116.8–158.6
Counts		
Dorsal-fin rays	X, 14	X, 14
Anal-fin rays	III, 7	III, 7
Pectoral-fin rays	18	17–18
Pelvic-fin rays	I, 5	I, 5
Gill rakers	12 + 28–30 = 40–42	12–13 + 28–31 = 40–44
Lateral-line scales	34–38	33–40
Measurements (% of SL)		
Body depth	40.1–42.9 (41.3)	39.4–43.7 (41.9)
Body width	17.1–17.6 (17.3)	15.6–19.7 (17.4)
Caudal-peduncle length	21.0–22.4 (21.7)	17.3–22.6 (19.3)
Caudal-peduncle depth	13.1–14.3 (13.8)	12.5–14.8 (13.6)
Head length	34.0–36.2 (35.2)	34.9–36.1 (35.5)
Snout length	7.7–9.1 (8.2)	7.8–10.8 (8.6)
Orbit diameter	10.3–11.0 (10.8)	9.1–11.7 (10.8)
Interorbital width	8.9–9.3 (9.1)	9.2–10.3 (9.8)
Upper-jaw length	16.5–16.7 (16.6)	16.9–17.6 (17.3)
Pre-dorsal-fin length	31.0–31.7 (31.3)	29.8–32.0 (31.2)
Pre-anal-fin length	61.7–64.3 (63.3)	64.3–67.8 (65.5)
Pre-pectoral-fin length	33.2–34.2 (33.8)	34.1–35.8 (35.0)
Pre-pelvic-fin length	36.6–38.0 (37.1)	37.2–39.8 (38.0)
Dorsal-fin base length	65.1–67.6 (66.7)	63.4–66.3 (65.5)
1st dorsal-fin spine length	5.5–6.9 (6.2)	6.3–9.3 (7.3)
2nd dorsal-fin spine length	11.0–11.3 (11.1)	8.7–14.3 (11.2)
3rd dorsal-fin spine length	19.7–22.9 (21.6)	17.1–26.8 (21.2)
4th dorsal-fin spine length	14.6–15.5 (15.2)	13.6–17.0 (15.2)
10th dorsal-fin spine length	15.1–15.4 (15.2)	13.4–16.5 (15.5)
Longest dorsal-fin soft ray length	32.5–44.1 (38.8)	33.4–40.4 (37.0)
Anal-fin base length	20.1–22.3 (21.0)	19.5–33.8 (22.4)
1st anal-fin spine length	7.6–9.0 (8.3)	1.6–10.1 (8.8)
2nd anal-fin spine length	15.4–16.0 (15.8)	15.1–19.1 (16.7)
3rd anal-fin spine length	17.0–17.6 (17.3)	15.9–20.1 (17.9)
Longest anal-fin soft ray length	21.4–23.7 (22.2)	20.9–23.6 (22.3)
Longest pectoral-fin ray length	29.3–29.8 (29.6)	27.8–34.7 (32.2)
Pelvic-fin spine length	18.6–20.0 (19.3)	17.7–20.1 (18.9)
Pelvic-fin length	27.0–37.7 (34.0)	36.0–42.8 (38.1)
Caudal-fin length	33.4–42.3 (38.8)	37.6–47.2 (41.9)
Caudal concavity	20.3–28.6 (25.2)	23.2–30.8 (26.9)

し、それより上方は明るい黄色を呈する。背鰭軟条部基底は明るい黄色を呈し、それより上方は白色半透明 (KAUM-I. 159016 では赤橙色)。背鰭第4軟条から第14軟条にかけての鰭膜中央には黄色斑がいくつか並び (KAUM-I. 132724 ではほぼない)、縁辺は明るい黄色で縁どられる。臀鰭棘条は淡い赤紫色を呈する。臀鰭軟条部の地色は淡い黄色を呈する。KAUM-I. 129140 では臀鰭軟条の縁辺が赤紫色。KAUM-I. 159016 では軟条部基底が赤橙色を帯び、軟条先端が淡い赤紫色に縁どられる。胸鰭の地色は赤橙色 (KAUM-I. 159016 では赤みの強い桃色) を呈し、胸鰭基底はやや暗い黄色を呈する。胸鰭前方に眼径と同長の明るい黄の横帯が1本ある。腹鰭軟条は黄色で (KAUM-I. 159016 では第2軟条のみ)、腹鰭第1棘と第1-2軟条の縁辺は淡い赤紫色を呈する (KAUM-I. 129140 では第2軟条は縁どられない)。腹鰭第3軟条から第5軟条にかけての縁辺は白色半透明 (KAUM-I. 159016 では第3軟条から第5軟条にかけてうすく赤桃色を帯びる)。尾鰭基底中央は明るい黄色を呈する。尾鰭基底縁辺から両葉先端にかけて赤紫色を呈し、その内側は明るい黄色を呈する。尾鰭基底中央部から後縁にかけては赤橙色を呈する。虹彩の外縁は前部を除き赤紫色を呈し (KAUM-I. 129140 では上下のみ)、その内側は明るい黄色を呈する。

分布 日本、台湾、フィリピン、およびインドネシアから記録されている (Lee, 1990; Randall and Heemstra, 2006; Peristiwady, 2011; 瀬能, 2013; Hata, 2017)。日本国内においては、小笠原諸島、相模湾、駿河湾、熊野灘、和歌山県、土佐湾、大隅諸島 (黒島)、トカラ列島 (口之島・臥蛇島・中之島・平島)、および沖縄舟状海盆から記録されていたが (田中, 1917; 黒田, 1951; 山川, 1985; Shinohara and Matsuura, 1997; Senou et al., 2006; Peristiwady, 2011; 瀬能, 2013; 池田・中坊, 2015; 田代ほか, 2018; Jeong and Motomura, 2021)、本研究によって新たに鹿児島県の奄美大島から本種が記録された。

備考 記載標本は背鰭軟条数が14であること、胸鰭軟条数が18であること、側線有孔鱗数が34-38であること、体長が体高の2.33-2.49倍であること、背鰭棘条部は第3棘が最も伸長し、先端に黒色域があること、背鰭軟条部に黒色帯がないこと、および尾鰭基底に黒色帯がないことなどの特徴が Randall and Heemstra (2006) と田代ほか (2018) が示したイッテンサクラダイ *Odontanthias unimaculatus* (Tanaka, 1917) の特徴と一致したため、本種に同定された。

イッテンサクラダイの国内における記録は「分布」の項目で述べたとおりであり、本研究で記載した標本は奄美群島における本種の初記録となる。本種は水深60-250mから記録されており (山川, 1985; Randall, 2006; Senou et al., 2006; 池田・中坊, 2015; Hata, 2017; 田代ほか, 2018)、奄美大島産の標本 (KAUM-I. 159016) も水深60

mから漁獲された (他の2個体は漁獲水深不明)。

謝 辞

本報告を取りまとめるにあたり、窪 房一氏には貴重な標本を賜った。鹿児島大学大学院農林水産学研究所の渋谷駿太氏、古橋龍星氏、および是枝伶旺氏には適切な助言を頂いた。鹿児島大学総合研究博物館ボランティアの皆さまと同博物館魚類分類学研究室の皆さまには標本作成にご協力頂いた。以上の方々に謹んで感謝の意を表する。本研究は鹿児島大学総合研究博物館の「鹿児島・琉球列島の魚類多様性調査プロジェクト」の一環として行われた。本研究の一部は公益財団法人日本海事科学振興財団「海の学びミュージアムサポート」、JSPS 科研費 (20H03311・21H03651)、JSPS 研究拠点形成事業-B アジア・アフリカ学術基盤形成型 (CREPSUM JPJSCCB20200009)、および文部科学省機能強化費「世界自然遺産候補地・奄美群島におけるグローバル教育研究拠点形成」の援助を受けた。

引用文献

- Hata, H. 2017. *Odontanthias unimaculatus*, p. 90. In Motomura, H., U. B. Alama, N. Muto, R. P. Babaran and S. Ishikawa (eds.) Commercial and bycatch market fishes of Panay Island, Republic of the Philippines. The Kagoshima University Museum, Kagoshima, University of the Philippines Visayas, Iloilo, and Research Institute for Humanity and Nature, Kyoto. [URL](#)
- 池田博美・中坊徹次. 2015. 南日本太平洋沿岸の魚類. 東海大学出版部, 秦野. 567 pp.
- Jeong, B. and H. Motomura. 2021. An annotated checklist of marine and freshwater fishes of five islands of Mishima in the Osumi Islands, Kagoshima, southern Japan, with 109 new records. Bulletin of the Kagoshima University Museum, 16: 1-116. [URL](#)
- 黒田長禮. 1951. 駿河湾魚類分目録 (沿岸産淡水魚を含む). 魚類学雑誌, 1: 314-338. [URL](#)
- Lee, S.-C. 1990. A revision of the serranid fish (family Serranidae) of Taiwan. Journal of Taiwan Museum, 43: 1-72.
- 本村浩之. 2009. 魚類標本の作製と管理マニュアル. 鹿児島大学総合研究博物館, 鹿児島. 70 pp. [URL](#)
- 本村浩之. 2020. 日本産魚類全種目録. これまでに記録された日本産魚類全種の現在の標準和名と学名. 鹿児島大学総合研究博物館, 鹿児島. 560 pp. [URL](#)
- Parenti, P. and J. E. Randall. 2020. An annotated checklist of the fishes of the family Serranidae of the world with description of two new related families of fishes. FishTaxa, 15: 1-170. [URL](#)
- Peristiwady, T. 2011. First record of *Odontanthias unimaculatus* (Tanaka 1917) (Perciformes: Serranidae) from Indonesia. Biodiversitas, 12: 136-140. [URL](#)
- Randall, J. E. and P. C. Heemstra. 2006. Review of the Indo-Pacific fishes of the genus *Odontanthias* (Serranidae: Anthiinae), with descriptions of two new species and a related new genus. Indo-Pacific Fishes, 38: 1-32.
- Senou, H., K. Matsuura and G. Shinohara. 2006. Checklist of fishes in the Sagami Sea with zoogeographical comments on shallow water fishes occurring along the coastlines under the influence of the Kuroshio Current. Memoirs of the National Science Museum, 41: 389-542.
- Shinohara, G. and K. Matsuura. 1997. Annotated checklist of deep-water fishes from Suruga Bay, Japan. National Science Museum Monographs, 12: 269-318.
- 田中茂穂. 1917. 日本産魚類六新種. 動物学雑誌, 29: 198-201. [URL](#)
- 田代郷国・高山真由美・本村浩之. 2018. 鹿児島県初記録のハタ科魚類イッテンサクラダイ. Nature of Kagoshima, 44: 347-351. [URL](#)
- 山川 武. 1985. イッテンサクラダイ, p. 467. 岡村 収 (編) 沖縄舟状海盆及び周辺海域の魚類 II. 日本水産資源保護協会, 東京.